



2022年11月8日

各位

会社名 KYCOM ホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 福田 正 樹
(コード番号 9685 東証スタンダード)
問合せ先 常務取締役管理部長 吉村 仁 博
TEL 0776 (34) 3512

2023年3月期第2四半期連結累計期間業績予想との差異に関するお知らせ

2022年5月13日に公表いたしました2023年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と本日公表の実績につきまして差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 業績予想との差異について

2023年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値と実績値の差異
(2022年4月1日～2022年9月30日)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	百万円 2,640	百万円 140	百万円 160	百万円 100	円 銭 19.68
実績値(B)	2,731	203	216	137	27.10
増減額(B-A)	91	63	56	37	—
増減率(%)	3.5	45.1	35.6	37.7	—
(ご参考)前期第2四半期実績(2022年3月期第2四半期)	2,566	162	171	108	21.32

2. 差異の理由

2023年3月期第2四半期連結業績におきましては、連結売上高は前年同期比に比べ大型開発案件が収束した影響はありましたが、DX関連需要が引き続き旺盛であることや、稼働人員の増加、また、第2四半期から業績に含まれる連結子会社が1社増加した影響もあり、前回発表予想値を上回りました。また連結営業利益、連結経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益においても、グループ各社が原価や販管費削減の努力の効果もあり、前回発表予想値を上回ることが出来ました。

しかしながら、未だ新型コロナウイルス感染状況に加え、金融資本市場の変動、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動抑制の影響により、原材料価格の高騰や供給面での制約等における景気の先行き不透明感があります。下期においても原価の更なる高騰、景気の先行き不透明感継続からくるIT投資抑制の動きもあり、プロジェクトの立ち上げ遅延や新規の案件受注が充分見通せておりません。当初の予想よりも厳しい下期になる想定から通期の連結業績予想につきましては前回発表を据え置いております。今後の業績の動向により修正が必要と判断した場合には、速やかに公表いたします。

以上